

2学期 終業式

おはようございます。

明日から、冬休みが始まります。今日は皆さんと2学期を振り返りたいと思います。

2学期は、大塚祭文化の部や体育の部といった大きな学校行事がありました。文化の部では各クラスが趣向を凝らした企画に取り組みました。その中で、授業や部活動では見ることでできない皆さんの「顔・表情」に感動しました。体育の部では学年の枠を超えた団結力で様々な競技や演技を盛り上げてくれました。それらをやり終えた後のすがすがしい表情も胸に焼き付いています。生徒自治会の執行部の力も大塚祭成功の大きな原動力になっていました。

来年は皆さんの意見を生徒自治会に届けて、さらに素晴らしい大塚祭を創り上げて欲しいと思います。

また、「ワンデー大塚」、「ふれあい大塚」、そして「学校説明会」でも生徒の皆さんがさまざまな形で本校の魅力を発信してくれました。参加者アンケートでも、生徒による説明が大変良かったという声を多くいただきました。

さて、私は先月（11月）に視覚障がい者のマラソンで2016リオデジャネイロパラリンピック銀メダル、2020東京パラリンピック金メダル、そして今年のパリパラリンピックで銅メダルに輝いた道下美里（みちした みさと）さん「みっちゃん」のガイドランナーの堀内規生（ほりうち のりたか）さんのお話を聞く機会がありました。ガイドランナーの役割は視覚障がい者のある人が安心・安全に走れるように、選手の「目の代わり」になることです。道案内だけでなく、ペースメイクもします。相手の目になり切るためにマラソン以外の時間（食事やカラオケなど）を一緒に過ごしたそうです。ただ、最初のころは料理の一つひとつを説明するのが大変で、1度だけ説明しにくい料理の一品をその場になかったことにして、そっと2人分を食べたことがあったそうです。もちろん後で打ち明けて「みっちゃん」にとっても怒られたそうです。

堀内さんが大切にしていることは、嘘を言わないこと、本音をストレートでぶつけることです。そんな時間を過ごしていくと、ランニング中、互いに持っているロープの張力で相手の機嫌や気分を感じることもあるようです。その結果がパラリンピックでのメダル獲得に繋がりました。

ここまでの話では、ガイドランナーの堀内さんが「支える人」のように聞こえますが、「みっちゃん」のとてつもない努力を間近で見て、共に過ごすことで「この人すごいな！自分も頑張らなきゃ！」といつも思わされて、実は自分が支えられているんだと気づいたそうです。

そして、パラリンピックに出場し、「一緒にメダルを取るんだ！」という夢をもらったそうです。

皆さんの周りも同じではありませんか。保護者の方はもちろん、友達、そして担任や顧問の先生など「ガイド」つまり皆さんを支え導いてくれる人は周りにたくさんいます。そしてそれらの人たちも皆さんと共に夢を追いかけていませんか。実はお互い支え合っているのです。

明日から冬休みに入ります。冬休みは夏休みや春休みに比べるととても短い
です。部活動の練習でほとんど休みのない人もいるでしょう。短い冬休みだから
こそ、自身の進路や部活の目標、趣味や友人関係、なんでもいいです。自身の
夢や目標をしっかり持って、皆さんを「支える人」に気づき、共に支え合って欲
しいと思います。

私自身も生徒の皆さんからいつも夢や希望、そして元気をもらっています。
ありがとう。